

特集
新しい人形町を語る

新しい人形町が始まる。

人形町商店街協同組合 理事長

柴川 賢

三水会 会長

橋元 壯太

対
談

人が好き！町が好き！だから楽しい。

そこには、本当に町が好き、楽しいという想いが溢れている。そこまで人を惹きつける「人形町」という町、そこにいったい何があるのか。なぜ、人が集まるのか。

—— 今春、人形町商店街協同組合新理事長に柴川賢氏と三水会新会長に橋元壯太氏が就任した。「人形町商店街協同組合」は歴史があり、明治41（1908）年、「商誠会」としてスタートした。商店街を中心とした町づくり推進のための組合で、町の活性化のため、様々なイベントを企画、運営している。商店街の「理事會」が親会であり、「三水会」は子会となる。町の伝統を、継承、発展させるお二人に今後の町づくりについて伺いました。

常に活気ある商店街であるためには、若いパワーが何より大事

柴川 テレビ・映画などのメディアで人形町が多く取り上げられるようになり、「この町には何かありそうだな、いつも何かやっている、おもしろそうだな。街歩きに食事がてらに寄って

みよう」という人たちが増えているように思う。だからこそ我々が考えていかなければならないことは、どれだけ長く町に興味を持ってもらい、回遊してもらおうかだと思います。そのため、元氣な商店街であることが何より大事。常に商店街からいきるんなことを、モノを発信していきたいと思う。内に籠もるより常に外に向けて。ただ発信し続けるには若い力が必要なんです。人が育たないと、町も繁栄しないと思います。いつも何かやっている町、これこそが前理事長のお考えであり、僕も同じ気持ちです。理事会と三水会、皆で行うイベントの TENT 張りもその一貫。ただ4時間で60 TENT 張りにはちょっと厳しいけどね(笑)

橋元 他の商店街さんと合同で話す機会がありますが、そこで感じたことは、人形町のブランディングは歴

史や老舗だけでなく、「人情味ある町」であり、「人が好き」な人が集まっている町」だと思うのです。現在はマンションも増え、人形町に住みたい方、出店したい方も多く、待ち状態だと聞きます。子どもが大きくなり、30年後の町がどうなっているんだろうと考えた時、僕は「隣に誰が住んでいるかがわかる町」、そんなヨコの繋がりのチェーンを作っていけたらいいと思うんです。「仕方ないから、ここに住む」ではなく、「人形町が好きだから住みたい!」。それは商店街活動も同じだと思いますよ。子どもは親の背中を見て育つわけですから。

柴川 まさに理事会と三水会にも匹敵することだね。

橋元 大人になり、「この町で、皆と一体になって、商店街活動をやるのが当たり前のことであつたり、だから楽しい!」と、思えるものを作っていきたい。

